

調査研究課題	甲府市および周辺地域での蚊類の生息調査	
調査研究期間	平成22年度～平成23年度（2カ年）	
目的・目標	<p>蚊類によって媒介される疾患（ウエストナイル熱、デング熱、チクングニア熱等）が世界中で毎年発生しており、人や物の交流の国際化に伴い、国内への定着が危惧されている。ウエストナイルウイルス（WNV）を媒介するとされる10種以上の蚊類を中心として生息状況を調査し、生活周辺で接触する可能性の高い、身近な蚊類について検証する。人工的な産卵場所を設置し、飼育・羽化後の蚊成虫の種類同定を実施する。平行して産卵場所となる発生源の調査を実施し、周辺環境と発生種の比較検討をおこない関連性などを検証する。</p> <p>以上の調査を実施し、WNV国内発生時の成虫対策、幼虫対策につなげるとともに、県民に対して平時から、身近な蚊類および発生源について周知することで、発生源対策、蚊成虫対策をおこなうことの重要性を、ホームページ等を通して啓発していくことを目的としている。</p>	
方法・計画	<p>ライトトラップ法（LT法）による蚊類成虫の捕集 オビトラップ法（OT法）による蚊類幼虫の捕集 人囿法により蚊類成虫の捕集 小水域等からの幼虫および蛹の直接採取 回収後の幼虫・蛹の飼育と羽化後の成虫による種の同定作業</p>	
総合評価点		4
総合評価コメント	<p>気候変動に伴う生態系の変化の一つとして蚊の生息種類と生息域の調査は、人や物資の移動のグローバル化とも相まって、注目すべきもので、重要な調査だと考える。</p> <p>調査方法と結果の検討に関しては科学的な側面を強化することを期待するとともに、ウイルス疾患との関連性も視野に入れて取り組んでほしい。</p>	
所の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・調査地点と捕集方法を再度検討し、調査研究を進めていきたい。 ・今後、ウイルス検査についても検討していきたい。 	

5:優れている, 4:良好, 3:概ね良好, 2:部分的な見直しを要す, 1:全面的な見直しを要す